



南の 柯の 夢の
 笠屋之勝赤根半七
 節操全傳
 第六卷
 編者曲亭畫師北齋
 新研策子



特別
 ~ 13
 3148
 6



特
へ13
3148
6

三七全傳南柯夢卷之六

東都

曲亭馬琴編次



橋下の歌

赤根あかね羊やぎ七しちののららももああねね世よににししをを。夏なつのの別わかるる浪なみ速すみ津つをを。假かり毛も
假かり毛もとと呼よぶぶめめののどど利りをを射いきき妻よめ子こをを安やすららにに親おやんんととああわわららしし。三さん務む身み
價いをを舊ふるのの數かずあありり。夏なつ子こ君きみ二に席せき方かた夫とへへ返かえささすす。ととおおへへもも細こ本ほん子こ
ああらら商あきなひいいままをを頭かぶよよめめ金かね調しらべりりどど胸むねううくくもも是こゝろ年としもも暮くるる。いいまま所ところ走はしりり六む日にち
あありり。ああのの日ひもも又また常つねののどど。假かり毛ものの箱はこをを奔はしりり。大おほ和わ摺ずりののほほととをを過あらら
るる。客きやく店みせのの二に階かいよりより。障あざな子こをを細こづづきき押おしひひららしし。ととああをを括あひままつつ。ああらら
ああららとといいふふ声こゑするする。ささららととああららとといいふふ。多おほくく旅たび客きやくのの從したが者ものめめににああららしし。男おとこ慌あわてて
走はしりり。ああららとといいふふ。守まもりり七しちをを呼よぶぶいいまま。近ちか曾そうののけけしし名なをを。假かり毛もをを衰おとろ髪かみとといいふふ

りのと鬻くは。汝ありやと。何よ。ま七。答。おのれは。あつち。その商人あり。假ををめさるべうりや。と信。ち。ち。の。奴隷。島。改。く。ま。が。主。の。西。國。を。入。よ。ト。ら。う。れ。あ。ふ。豪。家。あ。る。が。家。務。よ。つ。な。く。ス。く。こ。の。律。よ。返。留。ひ。ひ。つ。ま。わ。ね。の。さ。る。は。及。よ。ぬ。函。あ。め。と。あ。り。う。り。て。家。累。よ。假。毛。を。買。買。り。く。わ。う。ん。と。空。つ。と。る。ど。汝。が。今。齋。一。た。ら。い。つ。を。う。り。の。價。物。を。ひ。と。ら。二。ツ。え。せ。う。と。り。み。ま。七。ゆ。く。や。さ。う。く。擔。箱。を。負。卸。し。拵。る。袂。の。口。隅。を。打。披。た。て。一。疊。の。假。毛。を。と。り。お。し。と。れ。の。入。髪。と。稱。く。男。の。假。毛。う。り。そ。れ。の。簪。鬘。と。名。つ。け。る。女。の。假。毛。を。さ。よ。あり。あ。い。す。め。の。凡。五。六。貫。の。價。物。あ。る。べ。い。と。り。み。奴。隷。く。う。ら。う。く。と。ま。王。の。親。族。も。ま。く。又。毎。日。よ。交。加。せ。る。あ。ら。う。く。い。く。い。の。あ。い。す。め。を。あ。ら。う。く。の。ま。は。家。累。も。又。ま。分。あ。ら。う。く。と。さ。ら。う。り。の。價。物。を。い。る。い。る。ま。も。あ。ら。う。く。と。ま。

ま。り。て。ア。ん。と。の。い。う。く。件。の。假。毛。を。推。又。吐。く。二。階。よ。ま。り。登。り。ま。し。て。あ。ら。う。く。一。握。の。金。を。め。て。お。く。ま。七。よ。り。み。や。と。の。今。の。三。十。兩。あり。今。これ。を。と。ら。う。ら。う。れ。ば。數。の。ま。假。毛。を。進。ら。せ。よ。假。毛。結。を。と。ら。る。價。物。あ。ら。う。日。取。三十。日。を。限。て。め。て。ま。し。よ。價。を。同。今。残。あ。ら。う。と。ま。と。と。ま。ひ。た。あ。ら。う。れ。ば。後。の。證。据。よ。も。形。書。に。め。く。と。の。い。ふ。ま。七。の。ら。れ。を。ま。七。ま。七。大。よ。呆。れ。せ。よ。假。毛。を。買。入。の。あ。ら。う。と。二十。金。の。花。主。の。い。う。ら。う。る。僮。侍。あり。夫。が。夫婦。の。誠。心。を。憐。れ。ん。今。ま。七。と。尊。倉。め。へ。返。さ。せ。た。今。と。ま。あ。あ。あ。る。べ。い。と。か。の。う。ら。う。深。淺。び。墨。汁。より。つ。ら。い。ら。う。の。毫。を。扱。お。し。て。も。瓶。を。さ。ら。う。と。ま。と。ま。り。た。名。い。は。と。つ。ら。い。ら。う。の。や。と。所。を。奴。隸。と。親。れ。て。假。の。名。の。と。可。ぬ。と。也。よ。ま。が。名。の。と。ま。と。ま。と。り。あ。ら。う。る。果。て。その。も。瓶。を。可。ぬ。又。遍。よ。し。と。ま。

五。亦も二十兩の價物のなけれど。この大海日さういふ。結立て進らば。一
 價の只今。亦ゆりてもあるべし。珍をさく。あつしめど。泰然と急つ。金を
 取て押戴た。果て懐は扶め。假毛を悉相より出さ。これをても可ぬ。よ
 痛ま。ちて空擔を脊負てゆり。亦七郎の中。いり。喜し。あつらん。
 氣をよ。ええと哀れあり。ちうそよ。この日。今市全糸。布は際。九市。
 亦七郎長所。亦を窺ひ。折ら。彼を打殺して。三務を棄ひ。去り。
 宿恨を消さん。とて。二人うち。へん。ま。長所。もく。おし。大和橋。ある
 客店より。亦七郎。鞍の金をほく。ゆる。河。窺。滞。その。迹を跟て。
 人。あ。れ。如。く。對。ら。打。仆。し。て。金を棄ひ。と。んと。計。波。ら。る。が。黃。昏。あ。は。し
 と。年。の。終。あ。れ。い。人。の。往。も。繁。く。て。その。隙。を。ひ。ど。ひ。り。こ。づ。ら。よ。
 門。方。を。跟。も。り。生。垣。の。蔭。よ。わ。り。ひ。て。裡。の。容。を。張。ひ。り。も。と。ど。し

て。半。七。の。暮。あ。る。日。の。お。り。そ。く。乾。菜。干。つ。く。渚。お。戸。を。明。ん。と。さ。る。か。三。務。の
 夫。の。足。音。を。う。り。あ。り。て。夢。さ。ま。帰。り。ぬ。ひ。ぬ。と。い。へ。お。通。り。さ。り。出。入。回。ま。し。と
 舞。子。恩。愛。の。絆。あ。れ。活。業。の。疲。勞。も。厭。む。摺。箱。を。縁。頼。に。む。ら。り。と
 子。の。手。を。取。り。さ。て。も。の。冷。さ。さ。霜。瘡。の。痛。ま。り。此。ら。居。て。暖。め
 と。引。あ。さ。る。地。炕。より。三。務。が。汲。み。物。と。茶。之。妹。脊。の。水。入。り。ど。い。ふ。と
 常。より。遅。く。と。の。間。に。三。三。の。引。散。ら。し。る。撰。毛。片。う。り。負。ま。瘦。る。小
 火。袴。の。炭。圍。搔。起。し。く。は。う。ち。う。ち。う。ち。う。ち。出。ま。七。の。寒。風。あ。つ。い。あ。は。ね
 の。高。ひ。も。あ。つ。い。けん。お。か。居。る。と。堪。が。た。ま。さ。る。全。身。も。氷。ほ。り。ぬ。や。よ
 三。務。茶。粥。あ。り。も。温。は。炊。く。と。や。く。進。み。ま。よ。と。い。ふ。又。亦。七。小。膝。を。さ。り
 いる。物。ち。う。ち。も。ぬ。い。ど。行。り。も。う。ち。あ。た。く。ま。が。ヤ。ス。べ。た。り。あり。三。務。も
 び。い。ぬ。橋。よ。大。和。橋。の。あ。り。さ。る。客。店。へ。喰。び。入。り。ま。よ。う。り。た。旅。客

の家裏に。價三十金の假毛を買んとく。金を不直に残りあり。遍に三十日を限り。數のどくめく。来ると。挑らんとく。おくる花主ハ。去り。去年より。己と成る。彼は遣ひ減らした。彼身價も三十兩あり。今これをり。その缺るを補ひ。厚倉ゆへ返して。おま。安う。これを見。といひ。金を懐より。出せば。平三ハ。三勝大に飲び。そのさうさる。僕侍より。是も。神棚へ。燈を掲て。願を。のめ。か。の惠。ゆ。昨日の夜。燈花も。愁の眉を。開く。祥。神棚へ。燈を。掲て。願を。さん。といひ。つ。出。燧箱。火。比の昏。紛。入。布。施。今。縁。類。より。観。点。改。め。も。平三ハ。腰。を。建。を。撈。り。押入の戸。棚を。押。開。を。厚。倉。が。贈。る。金を。残。り。り。り。出。

これを。ま。せ。遍。と。く。い。か。食。家。不。相。應。る。預。め。と。夜。もう。ら。と。い。ハ。腫。ら。と。翌。ハ。朝。を。た。よ。れ。その。金。を。奈。良。へ。い。た。僧。の。身。が。志。を。す。え。り。厚。倉。ゆへ。返。し。の。舊。の。數。は。入。り。や。う。い。の。い。ハ。三。勝。ハ。今。灯。を。夫。の。さ。向。と。す。七。ハ。三。十。兩。の。金。を。置。る。又。平。三。ハ。遍。と。せ。金。を。財。布。と。り。出。く。さん。か。り。又。つ。眉。を。類。單。六。不。審。以。ハ。假。毛。の。價。は。と。り。金。も。繞。井。家。の。刻。印。あり。七。十。金。は。違。ひ。大。和。擔。る。旅。客。ハ。厚。倉。二。郎。太。夫。あり。彼。人。の。苦。を。知。く。假。毛。を。買。と。い。ひ。ら。ん。を。賤。と。り。い。あ。い。ハ。い。も。あ。い。ぬ。瘦。商。人。の。その。價。物。を。後。と。り。この。夥。る。金。を。せん。や。あ。い。と。呆。と。惑。ひ。搔。き。金。ハ。茶。蔴。の。花。の。い。ね。面。あ。

うさぎ
かま
蝶々
金を
金糸
金糸

角河史記卷之六

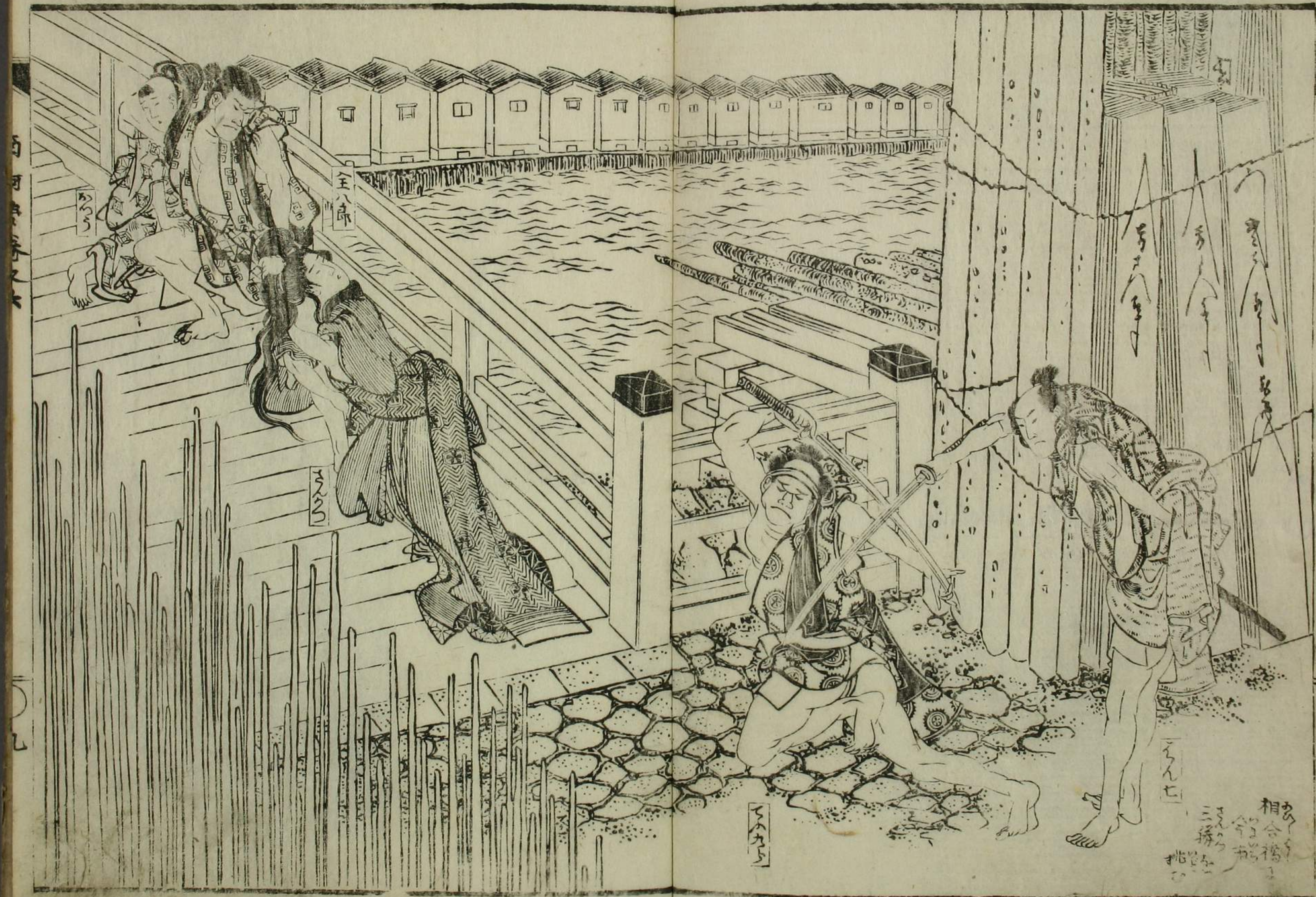


南木夢卷三

五

けや誰とも同く。共よ尿く。三務の子三と面をゆめ。ゆめ
 る油函をえく。縁類を踏つ。七年以前三條河原ゆめ。脚子
 足平を叙する。笠松平三市の正の仰を稟。搦捕らん。向へり。
 覚期せよ。罵めゆ。蝶九郎つと支り入り。火鉢をどめ。投
 げく。バ。灯滅く。炭と立。灰又咽く。公卿も誓も。意う。周章
 一。驚たあそれ。はみ通を。抱きあ。三務も。さえ。せん。さうり
 いる。その隙は蝶九郎の金を残り。掻晒く。外面へ逃。羊
 七ややく。みん。大か怒り。後姿の認め。悪棍の蝶九郎。よ。来
 ころ。賊を。這奴。とい。中刀。追。三
 十三も。望。六尺棒を。喘。追。三務
 ハ声。物。復。追。夜の道。謀。

誤る。み。ひ。と。ゆ。と。やく。も。え。さ。ゆ。先。め。と。あ。つ。る。
 灰を。やく。ち。つ。と。後。胸を。拍。通を。賺。碎。
 炭。の。懐。を。忙。く。爐の中。掃。入。く。灯。を。記。く。く。
 又。灯。を。後。方。又。忽。人。あり。物。を。抱。き。出。す。阿。呀。と
 うち。驚。た。を。返。り。掻。退。んと。さ。その。人。に。さ。め。る。袖。を。放。さ。ぬ。
 阿。と。笑。く。い。や。別。と。く。六。年。の。き。既。七。年。を。経。れ。面。を。れ
 や。あ。う。ん。さ。さ。う。め。の。あ。ゆ。て。め。ま。七。が。同。僚。あり。今。市。全。八
 ころ。曩。又。その。を。付。ひ。出。すと。三。條。河。原。あり。平。三。は。遠。面。ら。且。
 刺。せ。と。た。り。と。致。され。果。ハ。朝。都。を。追。放。且。牛。馬。も。芳。り。す。
 辛。た。世。を。さ。る。る。さ。る。る。さ。君。ゆ。め。と。あ。い。は。す。あ。ら。恨。め。の。且。と。それ。の。後。
 否。と。い。ふ。も。應。と。い。ふ。も。直。東。の。つ。お。く。ゆ。め。後。と。い。ふ。と。



全八序

全八序

三九

三九

相合橋
三橋

三



全八席



三



長所子
敷浪
三橋と
筋

み
の
ろ

み
の
ろ
か
み
の
ろ

西
木
州
巻
三
十
六

あつど。り。假毛をそめあつんとするべ。聖又未だき。とむろり。夏夏。通れ。生業も。維。ガ。乃。よ。と。ん。と。ひ。り。り。ら。は。る。の。女。房。ま。を。を。は。ら。を。ば。ら。の。轡。を。か。れ。ろ。さ。も。徒。者。ホ。を。其。如。も。移。り。つ。た。り。の。い。ふ。ひ。り。り。と。つ。と。裡。よ。り。し。ら。の。二。務。の。と。ひ。り。り。の。ね。が。顔。ら。に。贖。を。し。ひ。な。ご。ま。と。つ。と。請。を。り。を。固。辭。も。さ。さ。上。上。は。居。り。る。も。切。し。く。何。知。り。り。の。あ。り。り。に。話。で。あ。り。ん。の。中。に。あ。り。ん。の。い。ふ。ば。荒。然。と。う。ら。笑。て。お。あ。り。り。も。理。す。あ。り。の。ま。さ。の。亦。は。居。り。ん。と。欲。を。あ。る。強。く。す。ま。な。さ。舊。の。後。の。大。相。堂。を。二。務。と。の。り。り。と。向。く。も。恥。し。く。空。ふ。ま。の。二。務。の。ら。は。は。竹。り。と。答。を。べ。膝。を。す。め。ず。す。は。右。の。標。致。り。し。お。ひ。さ。ま。は。も。怪。れ。も。お。ひ。す。れ。竹。り。と。む。ろ。り。の。ま。は。不。審。也。ひ。あ。り。ん。の。牙。の。被。り。も。あ。り。不。忠。不。孝。の。人。と。い。は。る。赤。根。半。七。が。旧。男。大。和。國。院。井。丸。

の一の。花。臣。蟻。松。典。孫。が。妻。に。竹。り。と。す。も。あ。い。ど。二。務。の。顔。板。す。り。の。と。も。く。裏。く。胸。を。押。下。す。と。そ。の。夫。の。物。り。り。の。し。は。ら。の。園。花。と。よ。の。母。の。あ。り。り。の。う。さ。さ。の。浪。花。の。芦。も。枯。果。る。早。の。終。り。よ。さ。さ。と。行。く。あ。の。の。故。こ。も。あ。い。め。と。す。り。り。と。い。ふ。と。喃。の。二。務。と。の。大。女。の。左。臣。を。宍。小。和。ろ。不。義。淫。奔。を。責。罵。す。恥。づ。や。ん。と。と。未。だ。す。り。と。推。す。り。あ。い。り。も。ら。り。ね。ど。後。ろ。ろ。の。筋。の。あ。い。の。と。情。の。思。案。の。外。と。す。ん。引。り。の。殿。の。その。中。の。二。務。を。え。ん。と。の。密。味。も。ま。り。り。と。あ。り。り。の。名。も。厭。ど。お。り。討。と。び。と。居。め。め。と。大。和。の。二。務。に。か。え。ら。腹。し。り。り。と。あ。い。の。外。の。あ。い。り。と。い。ま。よ。園。花。が。夫。の。と。せ。の。の。を。欲。び。る。近。属。を。顔。の。さ。も。些。の。え。さ。は。ら。母。が。喜。び。と。い。ふ。を。さ。ま。の。さ。ま。の。あ。い。り。り。の。あ。い。り。り。の。始。ら。る。の。あ。い。り。り。も。あ。い。り。り。の。あ。い。り。り。の。七。年。置。去。よ。ま。れ。り。の。親。の。諫。も。聽。納。ど。長。久。病。著。と。き。よ。と。の。あ。

南村遺稿

稚はとれよ。親と親と結号しりとも。私の縁ありびとくは後
 うじさればとて。ふもどめる人をむぢんよさらす。お拍子とする鬼
 鬼はねてか女児の泣く声。ようこそとさきさきを産田のく。お七は赤月眉
 ろ。それをが側室とす。又園花の奈良と浪花と菊つとも。聞かすも
 ろく。とさかかは一筆消息とありふ。老日彼女遍散の茶利小も
 うー。女児の復せん。それの母がらう。又夫典猪か志とくま
 めく。お七は欺れ。可惜女児を。度気死させよ妻ありて。面目を夫
 ふの。あはれ。むくもあらぬ。愛ふまをば。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 在知れしれば。搦捕る。年々の積を散る。お七は。お七は。お七は。お七は。
 のかみ。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 うる。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 飽き。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 の。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 を。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 あ。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 疾。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 籠。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 ら。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 跡。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 を。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 方。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 四。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。

飽き。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 の。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 を。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 あ。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 疾。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 籠。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 ら。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 跡。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 を。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 方。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。
 四。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。お七は。

女児が下をたのこふりけり。ゆらけぬ。うけ引てぬれり。とるは涙
 げに勝の堰うみ。涙の泉しとび果ぬ妹脊の中も胸の中も裂れ
 じ苦くは浮世の夢死よ。何とゆふべの相合橋も。あけぬ。かきこ
 夫よさへ。羽の柳も膝よ。落せめて。彼処を死とらうと。それとつ
 身よ。暇乞。乱る。髪を掻あげ。うらをうらた。わくまをよ。ゆえぬ
 こそ。喜し。うれ。か。身ひとり。を。退けり。守七ね。を。世に。あはれ
 の直。執も。汗。されぬ。あふ。か。とも。あつ。あつ。され。まふ。儀儀。けり。く
 とりの。教を。つ。く。と。うら。瞻。し。る。さ。り。園。花。あり。持。ひ。も。持。ひ。く。操。容
 止。り。と。致。ら。る。ま。で。美。く。さ。く。痛。く。も。一。入。目。本。怜。悧。女。子。よ。く。も。
 かる。と。た。よ。の。思。ふ。う。り。理。も。非。も。聽。ぬ。俗。なる。よ。あ。と。と。も。く。と。
 浪。速。へ。ま。る。る。う。ひ。の。あ。れ。う。や。ま。七。と。縁。の。離。る。と。も。ひ。ふ。う。の。女。児。と。も。

思ひけり。向もひひつる。と。それ。あ。う。た。れ。お。夕。の。煙。の。細。く。も。た。と。う
 けり。ん。と。そ。い。か。の。ま。い。ま。て。海。同。辰。り。ゆ。も。あ。れ。ま。七。が。後。も。迹。を
 暗。り。の。お。の。の。た。と。け。え。あ。ふ。と。ら。う。を。な。ぬ。り。ゆ。春。の。う。さ。と。も。あ。る
 へ。ん。助。ま。の。け。り。や。明。向。の。ひ。ひ。つ。る。も。あ。り。と。も。と。惜。と。あ。あ。昔。が。う。い。奴。
 いう。ら。ん。よ。漏。も。へ。ぬ。ち。し。ぬ。と。結。同。も。と。三。指。終。よ。推。辞。と。を。せ。七。年。以。前
 よ。才。七。が。二。郎。を。夫。と。謀。し。合。り。吉。稚。丸。淫。樂。の。悪。名。を。雪。ん。た。よ。結。髪。友
 ぢ。一。女。子。あ。の。と。い。ち。う。こ。い。と。二。指。を。奪。ひ。ま。直。よ。殺。さんと。あ。つ。る。う。め。ら。り。
 白。河。山。あ。の。な。体。ま。賀。の。橋。居。信。濃。路。の。艱。難。い。さ。う。早。二。が。義。ま。り。ひ
 流。志。よ。も。う。さ。う。涙。と。も。よ。物。が。う。れ。ぬ。あ。い。は。り。さ。も。く。嗟。嘆。し。と。ん。ひ
 さ。や。す。七。の。比。稀。あ。る。た。辰。よ。と。ま。あ。り。又。薄。命。の。貞。胸。あ。う。ん。と。あ。の。お。辰。も。あ
 ち。と。い。れ。標。貞。一。女。も。淫。婦。と。罵。さ。ぬ。あ。う。う。腹。は。じ。く。も。あ。る。べ。れ。と。あ。の。世

南無阿彌陀佛

十七

